

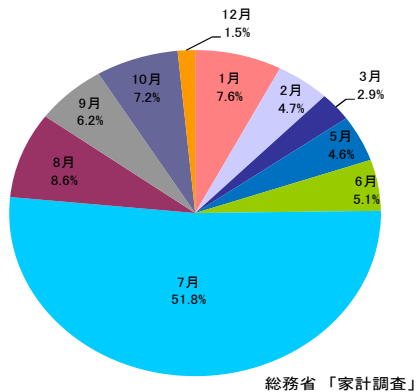


うなぎは高嶺の花？

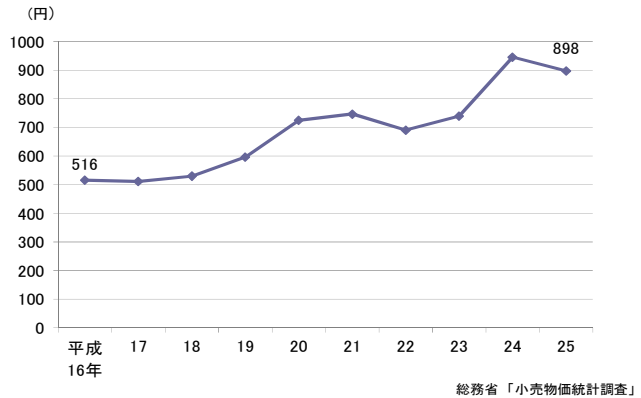


7月29日は土用の丑の日です。夏の土用の丑の日には、夏ばてを防ぐために栄養豊富なうなぎを食べる習慣があり、すっかり日本の食生活に欠かせないものとなっています。しかし、今年6月、ニホンウナギが絶滅危惧種としてレッドリスト入りすることがニュースとなり、大きな話題をよびました。そこで今回のトピックスでは、うなぎについて様々な統計を集めてみました。

「うなぎのかば焼き」への1世帯あたり
年間支出金額に対する月別割合（平成25年）



「うなぎのかば焼き」の価格の推移（那覇市）



平成25年の「うなぎのかば焼き」への1世帯あたりの支出金額を月別にみると、7月の支出金額が年間支出金額の51.8%と最も多くなっています。

また、那覇市における小売物価の推移をグラフにしてみると、平成16年から平成25年にかけて上昇傾向にあることがわかります。沖縄でも土用の丑の日の習慣が根付いているようです。

うなぎの漁獲量の推移

(単位:t)

年次	平成 19年	20	21	22	23	24
合計	22,530	21,222	22,669	20,788	22,235	17,542
漁業漁獲量	289	270	263	245	229	165
養殖漁獲量	22,241	20,952	22,406	20,543	22,006	17,377

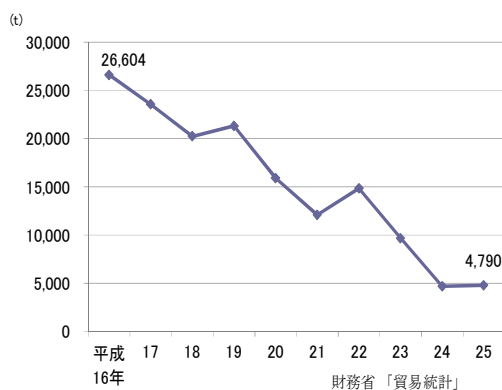
農林水産省「海面漁業生産統計調査」

日本で食べられるうなぎのほとんどは冬から春に川でとったシラスウナギを池で大きくする養殖であるといわれています。

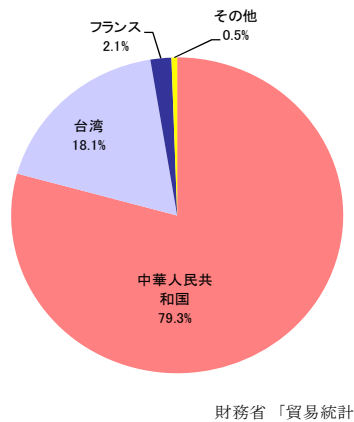
農林水産省の海面漁業生産統計調査によると、うなぎの漁獲量は2万トン前後で推移しており、その大半が養殖となっています。

では、輸入の状況はどうでしょうか。うなぎの輸入数量は年ごとの変動はあるものの、減少傾向にあります。また、うなぎの輸入数量を国籍別にみると、中国産が78.1%をしめています。

うなぎの輸入数量の推移



うなぎの輸入数量国籍別比率（平成25年）



今シーズンについては、シラスウナギ漁が九州・四国を中心に好調で、漁獲量が倍増しているようです。「高嶺の花」となっていたうなぎが食卓にもどってくるのでしょうか、期待したいところです。